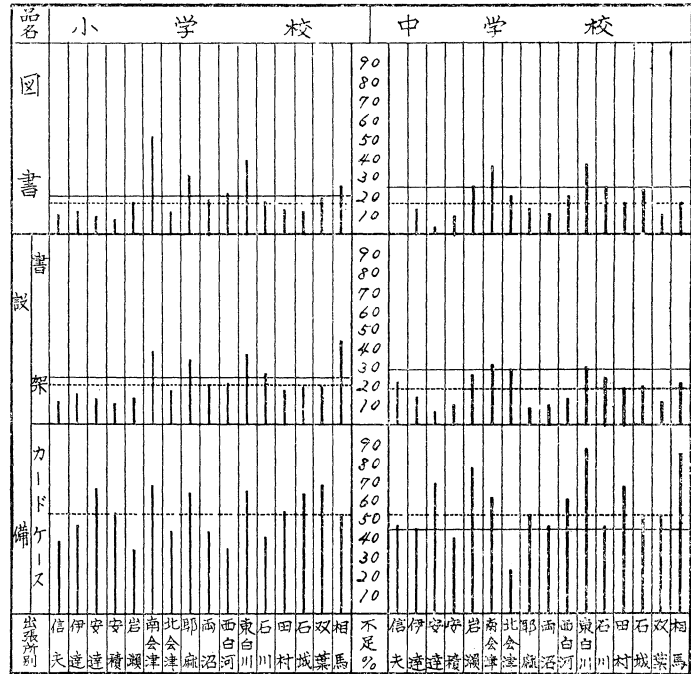


別表(3)

学校種別	高等学校		全国平均	県平均	
	盲部	ろ学部		設架備	設架備
図書	四・三	三・五	10%	四・八	四・八
設架備	六・二	四・七	12%	七・五	六・八
カード	一・六	二・七	4%	一・四	二・七
設架備	九・九	八・〇	9%	九・九	六・〇
カード	九・〇	五・七	9%	九・〇	九・〇

別紙(2)



——は全国平均 - - - - - は本県平均

学校種別	対象数		補助金額	設置者負担額	事業決算額
	校数	町村数			
小学校	五八	八	三,四〇〇,〇〇〇円	三,八四四,七五円	七,〇四七,七五円
中学校	四三	六	四,三二一,〇〇〇	四,七六,三〇〇	八,四八七,三〇〇
高等学校	三	一	二,三三三,〇〇〇	二,三三三,〇〇〇	四,七六六,〇〇〇
盲学校	一	一	三,四〇〇,〇〇〇	三,四〇〇,〇〇〇	六,八〇〇,〇〇〇
ろ学校	二	一	六,〇〇〇,〇〇〇	六,〇〇〇,〇〇〇	一二,〇〇〇,〇〇〇
計	一一七	一六	一〇,一三三,〇〇〇	一〇,三六四,〇一五	二〇,七〇〇,〇一五

(別表一) 昭和三十一年決算総括表

理科教育振興法(昭和二十八年法律第一八六号)にもとづく理科教育設備費補助金は小・中・高・盲ろう学校を対象とし、充実額の二分の一が国庫より補助され、科学的な知識・技能の習得と設備の充実に重大な役割を果し、本県の理科教育の振興に多大の貢献をなしている。

第九節 理科教育振興法による事業をどう実施したか

一、昭和三十一年度決算状況

1 決算状況
交付決定額の九割を前金払として先に支出し、残額の一割については、決算書類を審査の上支出した。

四、今後の問題

本県の学校図書館は、年々整備され大多数の学校が、全国平均以上に充実され

〇七千円・盲ろう学校(盲部九五九千円・ろう学校四五五千円)一、四一四千円となる。これを三十二年度において、負担金による充実・その他の経費等による充実により、基準までの所要額の十%程度が解消される。

だが、これにともない図書館運営の向上は、充実度に比してややおくれいていると認められるので、運営・活用等の研究に努力されることが今後の問題として考えなければならぬ。
昭和三十三年度から、小・中学校分の国庫負担金制度は廃止され、教材費国庫負担金に繰入れとなるので、教材費により図書の充実ははかるよう要望する。